

# 野村グローバル・アセット・モデル・ファンド (野村SMA向け)

## 償還運用報告書(全体版)

第18期(償還日2024年4月1日)

作成対象期間(2024年3月6日~2024年4月1日)

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。  
このたび、約款の規定にもとづき償還決算を行ない、償還価額が決定いたしました。  
ここに設定日から償還までの運用経過をご報告いたしますとともに、ご愛顧に対し  
厚く御礼申し上げます。

### ●当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/内外/資産複合/特殊型(絶対収益追求型)	
信託期間	2024年4月1日をもちまして繰上償還いたします。(設定日2007年10月30日)	
運用方針	グローバル・アセット・モデル・ファンド マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)受益証券への投資を通じて、主として内外の短期有価証券に投資し安定した収益の確保を目指すとともに、世界主要国の株価指数先物取引、債券先物取引等の有価証券先物取引等および為替予約取引等の積極的な活用により日本円の短期金利水準を上回る収益の獲得を目指して積極的な運用を行なうことを基本とします。 有価証券先物取引等および為替予約取引等の活用に当たっては、Global Tactical Asset Allocation(グローバルな戦術的資産配分。GTAA)モデル及びTactical Currency Allocation(戦術的通貨配分。TCA)モデルに基づき、市場データの精緻な分析により、推定される均衡水準から時価が乖離している資産・通貨に係るデリバティブ等を売買し、時価が均衡水準に収斂する過程での収益を獲得することを旨とします。	
主な投資対象	野村グローバル・アセット・モデル・ファンド(野村SMA向け)	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。なお、短期有価証券等に直接投資する場合があります。
	マザーファンド	内外の短期有価証券を主要投資対象とし、世界主要国の株価指数先物取引および債券先物取引を主要取引対象とし、為替予約取引等も積極的に活用します。
主な投資制限	野村グローバル・アセット・モデル・ファンド(野村SMA向け)	外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	マザーファンド	外貨建資産への投資割合には制限を設けません。デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。外国為替予約取引はヘッジ目的に限定しません。
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益等から、基準価額水準等を勘案して分配することを基本とします。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。	

## 野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号



サポートダイヤル 0120-753104

(受付時間) 営業日の午前9時~午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額		ベンチマーク	株式組入比率	株式先物比率	債券組入比率	債券先物比率	純資産額
		税込み	騰落率						
	円 銭	円	%	%	%	%	%	%	百万円
14期(2021年3月5日)	11,976	10	1.4	△0.09	—	5.5	—	△5.4	274
15期(2022年3月7日)	11,617	10	△2.9	△0.05	—	△35.0	—	38.4	257
16期(2023年3月6日)	10,948	10	△5.7	0.07	—	△38.1	—	38.1	31
17期(2024年3月5日)	10,088	10	△7.8	0.06	—	△11.8	—	12.2	1
(償還時)	(償還価額)								
18期(2024年4月1日)	10,215.77	—	1.3	0.00	—	—	—	—	1

\* 基準価額の騰落率は分配金込み。

\* 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

\* 株式先物比率、債券先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

\* ベンチマークは、2021年12月末まで日本円1ヵ月LIBORを使用しておりましたが、2022年1月からは日本円1ヵ月TIBORに変更しております。ベンチマークの騰落率は、日本円1ヵ月LIBORと日本円1ヵ月TIBORをもとに、当社が独自に累積再投資して算出しております。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	基準価額		ベンチマーク	株式組入比率	株式先物比率	債券組入比率	債券先物比率
		騰落率	騰落率					
(期首)	円 銭	%	%	%	%	%	%	%
2024年3月5日	10,088	—	—	—	—	△11.8	—	12.2
3月末	10,217	1.3	0.00	—	—	—	—	—
(償還時)	(償還価額)							
2024年4月1日	10,215.77	1.3	0.00	—	—	—	—	—

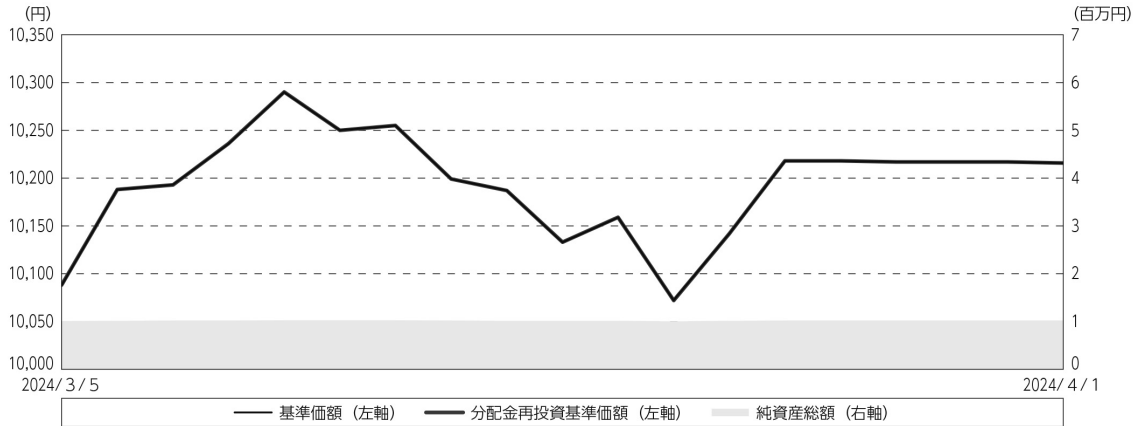
\* 騰落率は期首比です。

\* 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

\* 株式先物比率、債券先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

## ◎運用経過

## ○期中の基準価額等の推移



期 首： 10,088円

期末（償還日）：10,215円77銭（既払分配金（税込み）：－円）

騰 落 率： 1.3%（分配金再投資ベース）

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成年首（2024年3月5日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) ベンチマークは、日本円1ヵ月TIBORですが、基準価額と併記する形でグラフ掲載はしていません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

<株式部分はマイナスに影響、債券部分、為替部分はプラスに寄与>

(株式／－) 買い建てていたイタリア株はプラスに寄与しましたが、売り建てていたスペイン株がマイナスに影響しました。

(債券／＋) 買い建てていた英国債、ドイツ債がプラスに寄与しました。

(為替／＋) 買い建てていたスウェーデン・クローナはマイナスに影響しましたが、売り建てていたニュージーランド・ドル、スイス・フランがプラスに寄与しました。

## ○投資環境

### ・市場概況

株式市場では、3月、欧州株は3月のユーロ圏総合PMI（購買担当者景気指数）速報値が市場予想を上回ったことなどを背景に上昇しました。

債券市場では、3月、ドイツ債はECB（欧州中央銀行）理事会において年央の利下げ開始が示唆されたことなどを背景に上昇しました。

為替市場では、3月、スイス・フランは中央銀行が政策金利を引き下げたことなどを背景に対円で下落しました。

## ○当ファンドのポートフォリオ

### 【野村グローバル・アセット・モデル・ファンド（野村SMA向け）】

主要投資対象である〔グローバル・アセット・モデル・ファンド マザーファンド〕を高位に組み入れました。

繰上げ償還の方針決定後、〔グローバル・アセット・モデル・ファンド マザーファンド〕の売却を実施し、現金化しました。

### 【グローバル・アセット・モデル・ファンド マザーファンド】

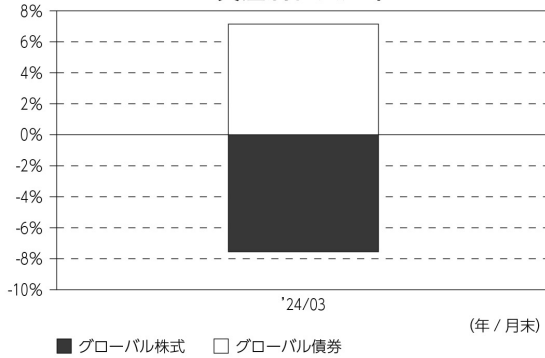
#### ・期中の主な動き

【株式】オランダ株、スイス株、ドイツ株を買い建てした一方、豪州株、カナダ株、香港株を売り建てしました。

【債券】英国債、ドイツ債を買い建てした一方、カナダ債を売り建てしました。

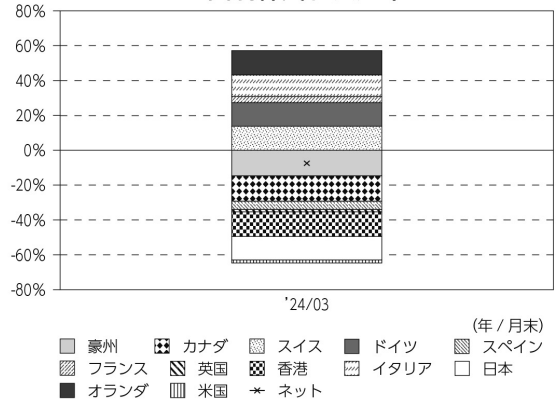
【為替】ユーロ、スウェーデン・クローナを買い建てした一方、ニュージーランド・ドル、英ポンド、スイス・フランを売り建てしました。

<資産別組入比率>



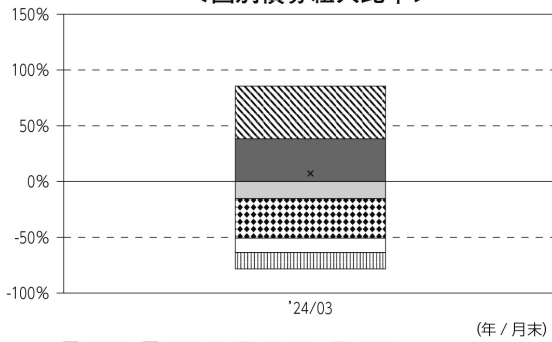
\*表示データは月末値となっております。  
\*組入比率はマザーファンドの純資産比率です。

<国別株式組入比率>



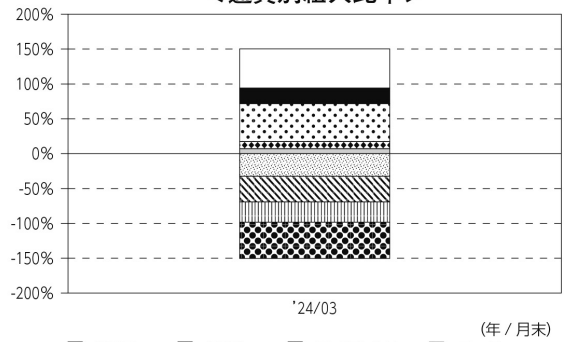
\*表示データは月末値となっております。  
\*組入比率はマザーファンドの純資産比率です。

<国別債券組入比率>



\*表示データは月末値となっております。  
\*組入比率はマザーファンドの純資産比率です。

<通貨別組入比率>



\*表示データは月末値となっております。  
\*組入比率はマザーファンドの純資産比率です。

## ○当ファンドのベンチマークとの差異

\* ベンチマーク対比では1.26ポイントのプラス

基準価額の騰落率は+1.27%となり、ベンチマークの+0.01%を1.26ポイント上回りました。

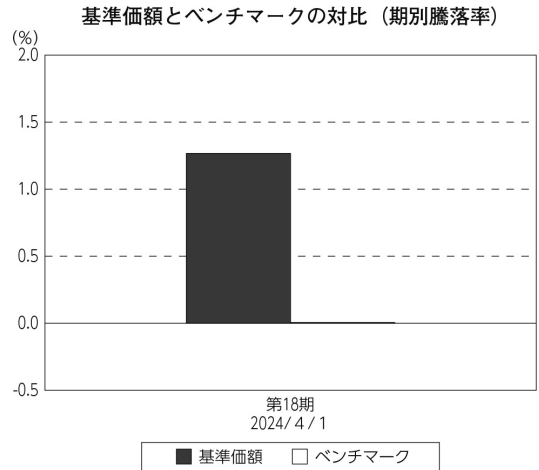
### 【主な差異要因】

株式部分はマイナスに影響しましたが、債券部分、為替部分がプラスに寄与しました。

株式部分では、買い建てていたイタリア株はプラスに寄与しましたが、売り建てていたスペイン株がマイナスに影響しました。債券部分では、買い建てていた英国債、ドイツ債がプラスに寄与しました。為替部分では、買い建てていたスウェーデン・クローナはマイナスに影響しましたが、売り建てていたニュージーランド・ドル、スイス・フランがプラスに寄与しました。

## ◎分配金

償還のため分配は行ないませんでした。



(注) ベンチマークの騰落率は、日本円1ヵ月TIBORをもとに、当社が独自に累積再投資して算出しております。

## ◎設定来の運用経過



### ○基準価額の推移

基準価額は、設定時の10,000円が償還時10,215.77円となりました。設定来お支払した分配金は1万口当たり160円となりました。

#### 第1期（2007年10月30日～2008年3月5日）

基準価額の騰落率は-0.29%となり、ベンチマークの+0.26%を0.55ポイント下回りました。

#### 第2期（2008年3月6日～2009年3月5日）

基準価額の騰落率は+6.94%となり、ベンチマークの+0.75%を6.19ポイント上回りました。

#### 第3期（2009年3月6日～2010年3月5日）

基準価額の騰落率は+9.92%となり、ベンチマークの+0.24%を9.68ポイント上回りました。

#### 第4期（2010年3月6日～2011年3月7日）

基準価額の騰落率は+2.91%となり、ベンチマークの+0.15%を2.76ポイント上回りました。

#### 第5期（2011年3月8日～2012年3月5日）

基準価額の騰落率は-3.13%となり、ベンチマークの+0.14%を3.27ポイント下回りました。

#### 第6期（2012年3月6日～2013年3月5日）

基準価額の騰落率は-0.28%となり、ベンチマークの+0.14%を0.42ポイント下回りました。

**第7期（2013年3月6日～2014年3月5日）**

基準価額の騰落率は+6.30%となり、ベンチマークの+0.12%を6.18ポイント上回りました。

**第8期（2014年3月6日～2015年3月5日）**

基準価額の騰落率は-2.43%となり、ベンチマークの+0.09%を2.52ポイント下回りました。

**第9期（2015年3月6日～2016年3月7日）**

基準価額の騰落率は+1.65%となり、ベンチマークの+0.05%を1.60ポイント上回りました。

**第10期（2016年3月8日～2017年3月6日）**

基準価額の騰落率は+0.31%となり、ベンチマークの-0.06%を0.37ポイント上回りました。

**第11期（2017年3月7日～2018年3月5日）**

基準価額の騰落率は+1.46%となり、ベンチマークの-0.03%を1.49ポイント上回りました。

**第12期（2018年3月6日～2019年3月5日）**

基準価額の騰落率は-1.59%となり、ベンチマークの-0.08%を1.51ポイント下回りました。

**第13期（2019年3月6日～2020年3月5日）**

基準価額の騰落率は-2.98%となり、ベンチマークの-0.11%を2.87ポイント下回りました。

**第14期（2020年3月6日～2021年3月5日）**

基準価額の騰落率は+1.44%となり、ベンチマークの-0.09%を1.53ポイント上回りました。

**第15期（2021年3月6日～2022年3月7日）**

基準価額の騰落率は-2.91%となり、ベンチマークの-0.05%を2.86ポイント下回りました。

**第16期（2022年3月8日～2023年3月6日）**

基準価額の騰落率は-5.67%となり、ベンチマークの+0.07%を5.74ポイント下回りました。

**第17期（2023年3月7日～2024年3月5日）**

基準価額の騰落率は-7.76%となり、ベンチマークの+0.06%を7.82ポイント下回りました。

**第18期（2024年3月6日～2024年4月1日）**

基準価額の騰落率は+1.27%となり、ベンチマークの+0.01%を1.26ポイント上回りました。

※当ファンドは、設定当初から日本円1ヵ月LIBORをベンチマークとして採用していましたが、2021年12月30日適用で日本円1ヵ月TIBORへ変更しました。

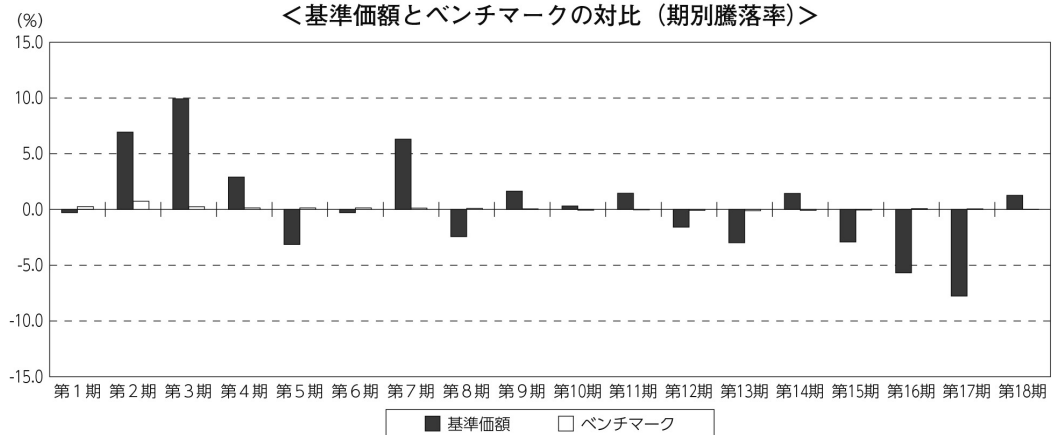


## ○ベンチマークとの対比

設定来では、基準価額の騰落率は3.6%となり、ベンチマークの1.7%を1.9ポイント上回りました。

設定来の基準価額とベンチマークの対比は、以下のようになりました。

\* 基準価額の騰落率は、分配金（税込み）を再投資して算出しております。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) ベンチマークの騰落率は、日本円1ヵ月LIBORと日本円1ヵ月TIBORをもとに、当社が独自に累積再投資して算出しております。

当ファンドは、2024年4月1日をもちまして繰上償還となりました。  
ご愛顧いただき、厚く御礼申し上げます。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

（2024年 3 月 6 日～2024年 4 月 1 日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬（基本報酬）	円 7	% 0.073	(a)信託報酬（基本報酬）＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投 信 会 社）	（ 7 ）	（ 0.065 ）	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（販 売 会 社）	（ 0 ）	（ 0.004 ）	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（受 託 会 社）	（ 0 ）	（ 0.004 ）	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 信託報酬（成功報酬）	—	—	(b)信託報酬（成功報酬）は、基本報酬額に加えて、委託会社が受領するハイ・ウォーターマーク方式による成功報酬額で、一定時点毎の基準価額が過去の一定時点における最高値を更新している場合に受領する仕組みになっています。
(c) そ の 他 費 用	0	0.002	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	（ 0 ）	（ 0.002 ）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	7	0.075	
期中の平均基準価額は、10,217円です。			

\*期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

\*各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

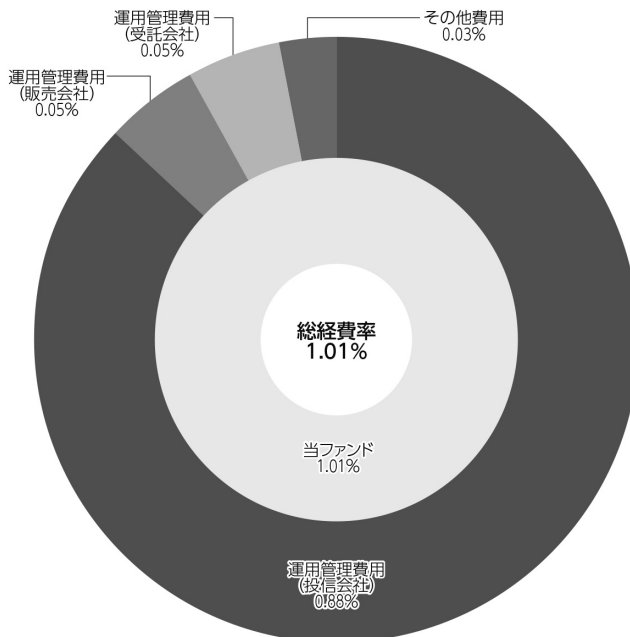
\*その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

\*各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## （参考情報）

## ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.01%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 当ファンドのその他費用には、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用が含まれます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

(2024年3月6日～2024年4月1日)

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
グローバル・アセット・モデル・ファンド マザーファンド	千口 -	千円 -	千口 759	千円 1,010

\*単位未満は切り捨て。

## ○利害関係人との取引状況等

(2024年3月6日～2024年4月1日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○組入資産の明細

(2024年4月1日現在)

2024年4月1日現在、有価証券等の組入れはございません。

## 親投資信託残高

銘柄	期首(前期末)	
	口数	千口
グローバル・アセット・モデル・ファンド マザーファンド	759	千口

\*単位未満は切り捨て。

## ○投資信託財産の構成

(2024年4月1日現在)

項目	償還時	
	評価額	比率
コール・ローン等、その他	千円 1,022	% 100.0
投資信託財産総額	1,022	100.0

\*金額の単位未満は切り捨て。

## ○資産、負債、元本及び償還価額の状況（2024年4月1日現在）

項 目	償 還 時
	円
(A) 資産	1,022,358
コール・ローン等	1,022,356
未収利息	2
(B) 負債	781
未払信託報酬	763
その他未払費用	18
(C) 純資産総額(A-B)	1,021,577
元本	1,000,000
償還差益金	21,577
(D) 受益権総口数	1,000,000口
1万口当たり償還価額(C/D)	10,215円77銭

(注) 期首元本額は1,000,000円、期中追加設定元本額は0円、期中一部解約元本額は0円、1口当たり純資産額は1.021577円です。

## ○損益の状況（2024年3月6日～2024年4月1日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	14
受取利息	14
(B) 有価証券売買損益	13,524
売買益	13,524
(C) 信託報酬等	△ 781
(D) 当期損益金(A+B+C)	12,757
(E) 前期繰越損益金	△190,737
(F) 追加信託差損益金	199,557
(配当等相当額)	( 184,221)
(売買損益相当額)	( 15,336)
償還差益金(D+E+F)	21,577

\* 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

\* 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## ○投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2007年10月30日			投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2024年4月1日			資産総額	1,022,358円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	781円	
				純資産総額	1,021,577円	
受益権口数	1,000,000口	1,000,000口	一口	受益権口数	1,000,000口	
元本額	1,000,000円	1,000,000円	一元	1万口当たり償還金	10,215円77銭	
毎計算期末の状況						
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金		
				金額	分配率	
第1期	197,115,455円	196,539,661円	9,971円	0円	0.0%	
第2期	434,116,292	462,459,673	10,653	10	0.1	
第3期	524,790,602	613,984,308	11,700	10	0.1	
第4期	342,271,190	411,771,873	12,031	10	0.1	
第5期	775,130,651	902,563,409	11,644	10	0.1	
第6期	595,034,409	690,280,190	11,601	10	0.1	
第7期	393,196,642	484,505,207	12,322	10	0.1	
第8期	525,013,317	630,664,662	12,012	10	0.1	
第9期	764,895,895	933,176,043	12,200	10	0.1	
第10期	446,159,680	545,545,273	12,228	10	0.1	
第11期	288,678,888	357,841,245	12,396	10	0.1	
第12期	245,425,188	299,158,587	12,189	10	0.1	
第13期	251,970,130	297,719,849	11,816	10	0.1	
第14期	229,360,659	274,690,030	11,976	10	0.1	
第15期	221,781,547	257,646,676	11,617	10	0.1	
第16期	29,023,323	31,774,039	10,948	10	0.1	
第17期	1,000,000	1,008,820	10,088	10	0.1	

## ○償還金のお知らせ

1万口当たり償還金（税込み）	10,215円77銭
----------------	------------

## ○お知らせ

該当事項はございません。

# グローバル・アセット・モデル・ ファンド マザーファンド

## 運用報告書

第20期（決算日2024年3月5日）

作成対象期間（2023年3月7日～2024年3月5日）

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。  
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。  
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

#### ●当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	日本円の短期金利水準を上回る収益の獲得を目指して積極的な運用を行なうことを基本とします。 有価証券先物取引等および為替予約取引等の活用に当たっては、Global Tactical Asset Allocation（グローバルな戦術的資産配分。GTAA）モデルおよびTactical Currency Allocation（戦術的通貨配分。TCA）モデルに基づき、市場データの精緻な分析により、推定される均衡水準から時価が乖離している資産・通貨に係るデリバティブ等を買戻し、時価が均衡水準に収斂する過程での収益を獲得することを目指します。
主な投資対象	内外の短期有価証券を主要投資対象とし、世界主要国の株価指数先物取引および債券先物取引を主要取引対象とし、為替予約取引等も積極的に活用します。
主な投資制限	外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。 外国為替予約取引はヘッジ目的に限定しません。

野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号

<http://www.nomura-am.co.jp/>

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額	騰落率	参考指標	株式組入比率	株式先物比率	債券組入比率	債券先物比率	純資産総額
16期(2020年3月5日)	円 15,066	% △2.0	% △0.11	% —	% 3.7	% —	% △3.1	百万円 6,442
17期(2021年3月5日)	15,438	2.5	△0.09	—	5.6	—	△5.5	5,287
18期(2022年3月7日)	15,129	△2.0	△0.05	—	△35.3	—	38.8	3,310
19期(2023年3月6日)	14,349	△5.2	0.07	—	△38.5	—	38.5	2,696
20期(2024年3月5日)	13,120	△8.6	0.06	—	△12.0	—	12.4	2,309

\*株式先物比率、債券先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

\*参考指標は、2021年12月末まで日本円1ヵ月LIBORを使用しておりましたが、2022年1月からは日本円1ヵ月TIBORに変更しております。

参考指標の騰落率は、日本円1ヵ月LIBORと日本円1ヵ月TIBORをもとに、当社が独自に累積再投資して算出しております。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率	参考指標	株式組入比率	株式先物比率	債券組入比率	債券先物比率
(期首) 2023年3月6日	円 14,349	% —	% —	% —	% △38.5	% —	% 38.5
3月末	14,928	4.0	0.00	—	△32.0	—	29.2
4月末	14,744	2.8	0.01	—	△39.8	—	39.7
5月末	14,516	1.2	0.01	—	△40.5	—	40.8
6月末	13,858	△3.4	0.02	—	△40.9	—	40.2
7月末	13,649	△4.9	0.02	—	△36.0	—	34.8
8月末	13,654	△4.8	0.03	—	△43.8	—	44.6
9月末	13,122	△8.6	0.03	—	△42.8	—	41.5
10月末	13,194	△8.0	0.04	—	△29.9	—	29.2
11月末	12,947	△9.8	0.04	—	△25.9	—	27.1
12月末	13,361	△6.9	0.04	—	△15.2	—	15.2
2024年1月末	13,257	△7.6	0.05	—	△8.5	—	8.4
2月末	13,086	△8.8	0.06	—	△11.7	—	12.0
(期末) 2024年3月5日	13,120	△8.6	0.06	—	△12.0	—	12.4

\*騰落率は期首比です。

\*株式先物比率、債券先物比率は買い建て比率－売り建て比率。



## ◎運用経過

### ○期中の基準価額等の推移



(注) 参考指標は、日本円1ヵ月TIBORですが、基準価額と併記する形でのグラフ掲載はしていません。

### ○基準価額の主な変動要因

<株式部分はプラスに寄与、債券部分、為替部分はマイナスに影響>

(株式／＋) 売り建てていたスペイン株はマイナスに影響しましたが、売り建てから買い建てに変更したオランダ株、概ね買い建てていた米国株、概ね売り建てていた英国株がプラスに寄与しました。

(債券／－) 売り建てていたカナダ債はプラスに寄与しましたが、概ね買い建てていた豪州債がマイナスに影響しました。

(為替／－) 買い建てていたユーロ、豪ドルはプラスに寄与しましたが、売り建てていたカナダ・ドル(期末は買い建て)、スイス・フラン、ニュージーランド・ドルがマイナスに影響しました。

## ○投資環境

### ・市場概況

株式市場では、2023年3月、英国株はスイスの大手金融グループの経営不安が強まったことなどをうけて金融システム不安が高まったことを背景に下落しました。4月、日本株は日銀の植田総裁の就任会見を受け、性急な金融政策の引き締め懸念が後退したことなどを背景に上昇しました。5月、香港株はマカオで新型コロナウイルスの感染者が増加傾向にあることや米中対立の激化などを背景に下落しました。6月、日本株は日銀が金融緩和策の維持を決定したことや、円安進行や国内景気回復期待が高まったことなどを背景に上昇しました。7月、米国株は6月のCPI（消費者物価指数）が市場予想を下回ったことをうけて、インフレ抑制のための利上げ継続への警戒感が和らいだことなどを背景に上昇しました。8月、香港株は中国の不動産業界における過剰債務問題への警戒感が高まったことなどを背景に下落しました。9月、香港株は米国の金融引き締め長期化や中国景気の先行き不透明感などを背景に下落しました。10月、欧州株は9月の独PMI（購買担当者景気指数）改定値が好調、不調の境目である50を下回ったことで景気低迷の長期化が懸念されたことや、中東情勢悪化懸念を背景に下落しました。11月、欧州株は英国の中央銀行が政策金利を据え置いたことや、11月の独ZEW景気期待指数が前月から改善し市場予想を上回ったことなどを背景に上昇しました。12月、豪州株は7－9月期の実質GDP（国内総生産）成長率が前期比で市場予想を下回ったことなどをうけて、RBA（豪州準備銀行）の利上げ局面が終了したとの見方が高まったことなどを背景に上昇しました。2024年1月、日本株は日銀の金融政策正常化観測の後退が好感されたことや、NISA（少額投資非課税制度）による個人投資家の買付が観測されたことなどを背景に上昇しました。2月、香港株は中国の株式市場への支援策が好感されたことや観光客数の回復が報じられたことを背景に上昇しました。

債券市場では、2023年3月、豪州債はRBA理事会において利上げ停止を検討すると示唆されたことを背景に上昇しました。4月、カナダ債は3月の製造業PMIが前月より低下したことなどを背景に上昇しました。5月、豪州債はRBAが0.25%の予想外の利上げを行なったことや、4月の豪総合PMIが高水準であったことなどを背景に下落しました。6月、豪州債は5月の雇用統計や小売売上高が市場予想を上回ったことなどを背景に下落しました。7月、日本債は日銀が金融政策決定会合においてYCC（イールドカーブコントロール）を修正するのではないかと観測が高まったことなどを背景に下落しました。8月、日本債は日銀による長短金利操作の柔軟化から利回り上昇圧力がかったことや、国債の入札が不調であったことなどを背景に下落しました。9月、豪州債は8月の雇用統計が良好な結果であったことや、FOMC（米連邦公開市場委員会）において年内の追加利上げが示唆されたことをうけて米国債が売られたことに連られ下落しました。10月、豪州債は7－9月期のCPI上昇率が市場予想を上回ったことをうけて年内の追加利上げ観測が再燃したことや、9月の小売売上高（速報値）が市場予想を上回ったことなどを背景に下落しました。11月、豪州債はRBAが政策金利の引き上げを決定したものの今後の追加利上げに関しては慎重な姿勢をみせたことや、10月の小売売上高が市場予想を下

回ったことを背景に上昇しました。12月、英国債は7－9月期の実質GDP確報値が市場予想を下回ったことなどをうけ、景気後退懸念が台頭したことなどを背景に上昇しました。2024年1月、英国債は2023年12月のCPI上昇率が市場予想を上回ったことなどを背景に下落しました。2月、米国債は1月の雇用統計が市場予想を上回ったことや、1月のCPIが市場予想を上回ったことなどを背景に下落しました。

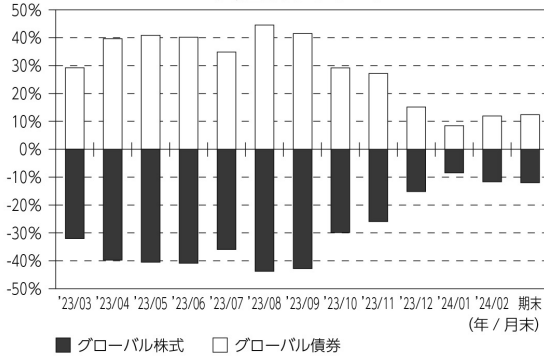
為替市場では、2023年3月、米ドルは米地銀の相次ぐ破綻を受けて金融システム不安が高まったことなどを背景に対円で下落しました。4月、ユーロはECB（欧州中央銀行）の利上げ長期化観測が高まったことや、2月のユーロ圏鉱工業生産指数が市場予想を上回ったことなどを背景に対円で上昇しました。5月、米ドルは債務上限問題をめぐる過度な警戒が和らいだことや、1－3月期の米実質GDPの改訂値が市場予想を上回ったことなどを背景に対円で上昇しました。6月、英ポンドはBOE（英中央銀行）が政策金利を市場予想であった0.25%を上回る0.5%の引き上げを決定したことを背景に対円で上昇しました。7月、スイス・フランは中央銀行の理事会において5会合連続で政策金利の0.25%引き上げを決定したことをうけて、日本との金融政策の違いがさらに意識されたことを背景に対円で上昇しました。8月、米ドルはFRB（米連邦準備制度理事会）の金融引き締め継続観測などから日米金利差の拡大期待が高まったことを背景に対円で上昇しました。9月、カナダ・ドルは原油価格が上昇したことや、8月の雇用統計が市場予想を上回ったことなどを背景に対円で上昇しました。10月、ユーロは10月の独ZEW景気期待指数が市場予想を上回り、前月からも大きくマイナス幅を縮めたことにより景気先行きに対する警戒感が和らいだことなどを背景に対円で上昇しました。11月、米ドルは10月の雇用統計において非農業部門雇用者数の伸び率が市場予想を下回ったことや、インフレ率の低下などに伴ない日米の金利差が縮小したことなどを背景に対円で下落しました。12月、米ドルはFOMCにおいて政策金利見通しが大幅に引き下げられたことや、追加利上げ見通しが撤回されたことなどを背景に対円で下落しました。2024年1月、米ドルはFRBによる早期利下げ期待の後退などにより日米金利差の拡大期待が高まったことなどを背景に対円で上昇しました。2月、ユーロは1月のECB理事会の議事要旨において利下げの討議に関しては時期尚早と示唆されたことなどをうけ、早期利下げ観測が後退したことなどを背景に対円で上昇しました。

## ○当ファンドのポートフォリオ

### ・期中の主な動き

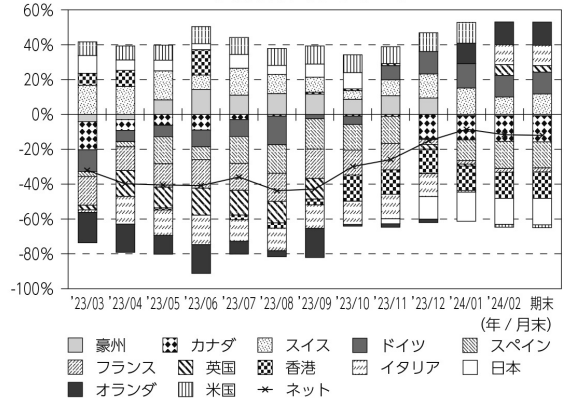
- 【株式】オランダ株はボラティリティ（価格変動性）の観点から魅力度が上昇、売り建てから買い建てに変更しました。一方、香港株はボラティリティの観点から魅力度が低下、買い建てから売り建てに変更しました。
- 【債券】ドイツ債はマネーサプライの伸び率の相対的な低下から魅力度が上昇、売り建てから買い建てに変更しました。一方、豪州債は住宅価格の相対的な上昇から魅力度が低下、買い建てから売り建てに変更しました。
- 【為替】カナダ・ドルは政府支出の相対的な減少から魅力度が上昇、売り建てから買い建てに変更しました。一方、英ポンドは相対的なインフレ率の低下から魅力度が低下、買い建てから売り建てに変更しました。

＜資産別組入比率＞



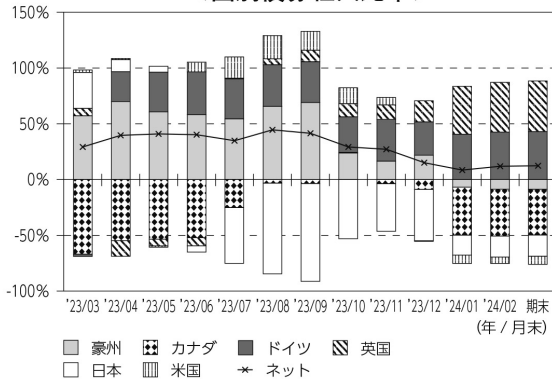
\* 期末を除く表示データは月末値となっております。  
\* 組入比率はマザーファンドの純資産比率です。

＜国別株式組入比率＞



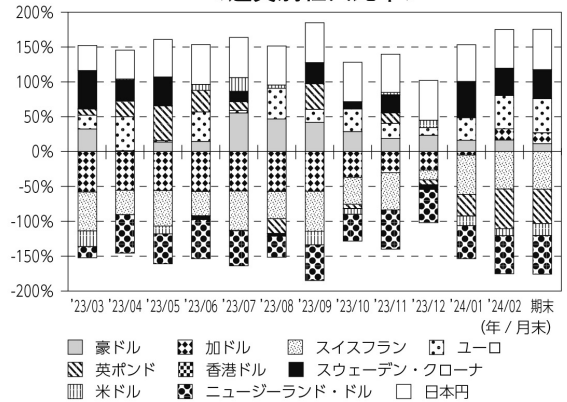
\* 期末を除く表示データは月末値となっております。  
\* 組入比率はマザーファンドの純資産比率です。

＜国別債券組入比率＞



\* 期末を除く表示データは月末値となっております。  
\* 組入比率はマザーファンドの純資産比率です。

＜通貨別組入比率＞



\* 期末を除く表示データは月末値となっております。  
\* 組入比率はマザーファンドの純資産比率です。

## ○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指標の騰落率の対比です。

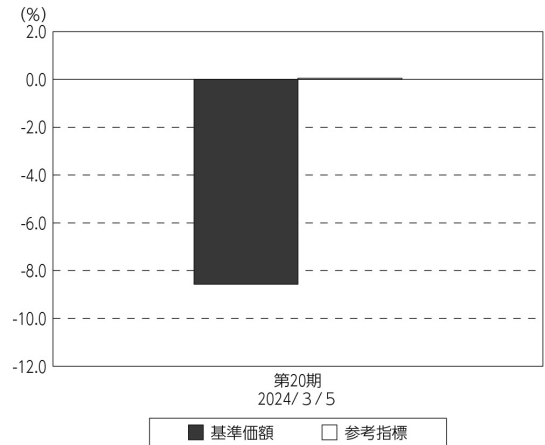
参考指標が+0.06%となったのに対し、基準価額の騰落率は-8.57%となりました。

### 【主な差異要因】

株式部分はプラスに寄与しましたが、債券部分、為替部分がマイナスに影響しました。

株式部分では、売り建てていたスペイン株はマイナスに影響しましたが、売り建てから買い建てに変更したオランダ株、概ね買い建てていた米国株、概ね売り建てていた英国株がプラスに寄与しました。債券部分では、売り建てていたカナダ債はプラスに寄与しましたが、概ね買い建てていた豪州債がマイナスに影響しました。為替部分では、買い建てていたユーロ、豪ドルはプラスに寄与しましたが、売り建てていたカナダ・ドル（期末は買い建て）、スイス・フラン、ニュージーランド・ドルがマイナスに影響しました。

基準価額と参考指標の対比（期別騰落率）



(注) 参考指標の騰落率は、日本円1ヵ月TIBORをもとに、当社が独自に累積再投資して算出しております。

## ◎今後の運用方針

運用に際しては、Global Tactical Asset Allocation（グローバルな戦術的資産配分。GTAA）モデル及びTactical Currency Allocation（戦術的通貨配分。TCA）モデルに基づき、市場データの精緻な分析により、推定される均衡水準から時価が乖離している資産・通貨に係るデリバティブなどを売買し、時価が均衡水準に収斂する過程での収益を獲得することを目指します。

(注) Global Tactical Asset Allocation (GTAA) モデル及びTactical Currency Allocation (TCA) モデルは、システムティカ・インベストメント社の開発した運用モデルです。

### ＜当面の運用のガイドラインについて＞

当面、資産配分において対象としている株式・債券市場及び通貨、資産配分・通貨配分において目処としている制約条件は以下の通りとします。

	株式			債券				通貨		
	下限	基準比率	上限	下限	基準比率	上限		下限	基準比率	上限
フランス	-18%	0%	18%	(投資対象外)		EUR	-60%	0%	60%	
イタリア	-18%	0%	18%							
スペイン	-18%	0%	18%							
オランダ	-18%	0%	18%							
ドイツ	-18%	0%	18%							
スイス	-18%	0%	18%							
スウェーデン	(投資対象外)			(投資対象外)			CHF	-60%	0%	60%
イギリス	-18%	0%	18%	-90%	0%	90%	SEK	-60%	0%	60%
アメリカ	-18%	0%	18%	-90%	0%	90%	GBP	-60%	0%	60%
カナダ	-18%	0%	18%	-90%	0%	90%	USD	-60%	0%	60%
オーストラリア	-18%	0%	18%	-90%	0%	90%	CAD	-60%	0%	60%
ニュージーランド	(投資対象外)			(投資対象外)			AUD	-60%	0%	60%
香港	-18%	0%	18%	(投資対象外)			NZD	-60%	0%	60%
日本	-18%	0%	18%	-90%	0%	90%	HKD	0%	0%	0%
資産合計	-50%		50%	-50%		50%	JPY	40%	100%	160%
							円短資	100%	100%	100%

なお、上記はあくまでも2011年4月1日以降適用している当面の対象や制約条件であり、モデルの改良や市場の流動性の要因により今後変更となる場合があります。また、運用上目処としている上限・下限ですので、資金動向、市況動向などにより上限・下限の範囲または値を一時的に超えることもあります。

(注) 比率は、純資産総額に対する比率。

株価指数先物、債券先物の買い建てによるロング・ポジションの合計と、売り建てによるショート・ポジションの合計との差額（ネット・ポジション）が、純資産総額の0%程度となるように、また、外貨についてはネット・ポジションを円換算した額が純資産総額の±60%以内となるように、相対的な評価によるロング・ショート・ポジションを構築します。

今後とも変わらぬご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○1万口当たりの費用明細

(2023年3月7日～2024年3月5日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	円 21 (21)	% 0.151 (0.151)	(a) 売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) その他費用 (保管費用) (その他)	0 (0) (0)	0.002 (0.002) (0.000)	(b) その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託事務の処理に要するその他の諸費用
合計	21	0.153	
期中の平均基準価額は、13,693円です。			

\*各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

\*各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○派生商品の取引状況等

(2023年3月7日～2024年3月5日)

先物取引の銘柄別取引・残高状況

銘柄別			買建		売建		当期末評価額		
			新買付額	決済額	新売付額	決済額	買建額	売建額	評価損益
			百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
国内	株式先物取引	TOPIX	614	926	823	523	—	351	△ 2
	債券先物取引	10年国債標準物	1,023	1,769	6,157	5,705	—	439	△ 2
外国	株式先物取引	SPEMINI	1,179	1,469	38	—	—	38	△0.392972
		CAN60	26	25	1,345	1,285	—	345	△ 10
		SPI200	1,274	1,294	178	277	—	18	△0.555525
		FT100	283	198	1,742	1,934	87	—	0.017184
		SWISSMKT	1,997	2,261	—	—	270	—	5
		HANGSENG	1,186	1,452	2,532	2,162	—	349	△ 1
		AEX	936	662	3,445	3,896	308	—	1
		CAC40	125	127	4,110	4,556	—	52	△0.215516
		DAX30	723	463	1,084	1,337	289	—	10
		FTSE/MIB	278	26	1,943	2,425	269	—	15
外国	債券先物取引	IBEX	—	—	5,098	4,987	—	345	△ 2
		TNOTE (10YEAR)	1,944	2,156	524	358	—	166	△0.907216
		CANADA	542	539	4,817	5,472	—	946	△ 5
		AU10YR	6,704	8,508	201	—	—	203	△0.829921
		GILTS	2,835	1,810	1,090	1,212	1,048	—	6
	BUNDS	6,029	5,099	60	119	994	—	1	

\*単位未満は切り捨て。ただし、金額が単位未満の場合は小数で記載。

\*外国の取引金額は、各月末(決算日の属する月については決算日)の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。



## ○利害関係人との取引状況等

(2023年3月7日～2024年3月5日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○組入資産の明細

(2024年3月5日現在)

## 先物取引の銘柄別期末残高

銘柄別			当期	
			買建額	売建額
国内	株式先物取引	TOPIX	百万円 —	百万円 351
	債券先物取引	10年国債標準物	—	439
	株式先物取引	AEX	308	—
外国		CAC40	—	52
		CAN60	—	345
		DAX30	289	—
		FT100	87	—
		FTSE/MIB	269	—
		HANGSENG	—	349
		IBEX	—	345
		SPI200	—	18
		SPEMINI	—	38
		SWISSMKT	270	—
外国	債券先物取引	AU10YR	—	203
		BUNDS	994	—
		CANADA	—	946
		GILTS	1,048	—
		TNOTE (10YEAR)	—	166

\*単位未満は切り捨て。

\*邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

○投資信託財産の構成

(2024年3月5日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 2,365,693	% 100.0
投資信託財産総額	2,365,693	100.0

\*金額の単位未満は切り捨て。

\*当期末における外貨建純資産(960,247千円)の投資信託財産総額(2,365,693千円)に対する比率は40.6%です。

\*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=150.42円、1カナダドル=110.81円、1英ポンド=190.94円、1スイスフラン=169.95円、1ユーロ=163.27円、1香港ドル=19.22円、1豪ドル=97.89円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年3月5日現在)

○損益の状況 (2023年3月7日～2024年3月5日)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	9,070,263,804
コール・ローン等	1,325,806,903
未収入金	6,781,092,507
差入委託証拠金	963,364,394
(B) 負債	6,760,521,163
未払金	6,760,520,826
未払利息	337
(C) 純資産総額(A-B)	2,309,742,641
元本	1,760,471,903
次期繰越損益金	549,270,738
(D) 受益権総口数	1,760,471,903口
1万口当たり基準価額(C/D)	13,120円

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	27,362,242
受取利息	195
その他収益金	27,952,437
支払利息	△ 590,390
(B) 有価証券売買損益	△344,960,841
売買益	568,589,054
売買損	△913,549,895
(C) 先物取引等取引損益	80,218,854
取引益	830,980,598
取引損	△750,761,744
(D) 保管費用等	△ 60,959
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	△237,440,704
(F) 前期繰越損益金	817,117,756
(G) 追加信託差損益金	187,741,627
(H) 解約差損益金	△218,147,941
(I) 計(E+F+G+H)	549,270,738
次期繰越損益金(I)	549,270,738

(注) 期首元本額は1,879,012,589円、期中追加設定元本額は516,318,373円、期中一部解約元本額は634,859,059円、1口当たり純資産額は1,3120円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額  
 ・野村グローバル・アセット・モデル・ファンド(野村SMA・EW向け) 1,415,948,437円  
 ・グローバル・アセット・モデル・ファンドF(適格機関投資家専用) 343,763,695円  
 ・野村グローバル・アセット・モデル・ファンド(野村SMA向け) 759,771円

\*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益および(C)先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

\*損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

\*損益の状況の中で(H)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

該当事項はございません。